

1. 生豆購入業者の選定：

過去に利用したことのある業者3社を検討し、直接交渉が可能だった県内業社「沖縄上島珈琲株式会社」から購入した。

2. 品種の選定と購入量：

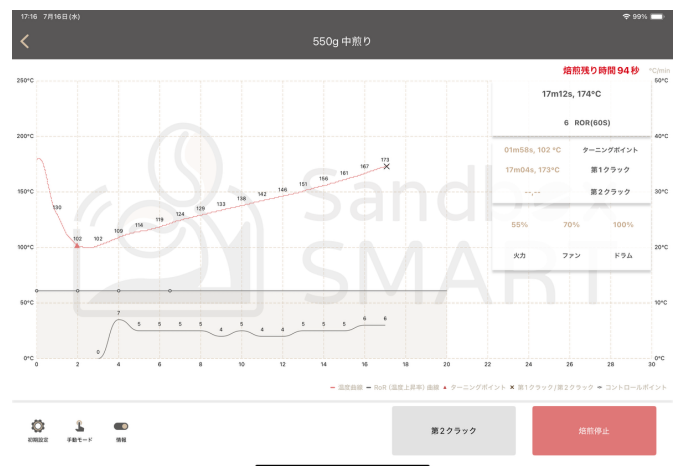
計画当初は5品種～6品種を考えていたが、多品種少量での実験から異差を確認する必要性を考慮して、1Kg～2Kg単位で10種類程度を購入した。また、今後サードスペースにおいての教材化や商品化など応用範囲が広がると考える。

3. 焙煎機・抽出機器等の購入：

- ・ Sandbox Smart2__家庭用焙煎機で550gまで焙煎ができ、スマホから温度管理や生豆時応じた操作が可能でデータ保存により再現性が高い。(図1)

- ・ CLEVER COFFEE DRIPPER (図2)
ハンドドリップが誰でも簡単にでき安定したコーヒーが抽出できる。

- ・ その他、温度計や濃度計 (図3) を購入



(図1)



(図2)



(図3)

4. 焙煎室整備の進捗状況：

11 月初旬、教育学部 427-1 の焙煎実験室を中心に研究を行っている。電源、水場、温度管理も完備しており、排煙システムの構築も完了し、順調にコーヒーの焙煎、抽出の実験を進めている。同様に、西普天間琉大病院内健康医療プラザの「琉球大学沖縄こどもまんなかウェルビーイング（WB）センター」においてもこれらの成果を活かし研究を進めていきたい。

5. タイムスケジュール：

4～11 月の準備期間と当初の計画修正を経て現在と今後の見通しは以下の通り。

期間	具体的な活動内容	目標
4・5・6 月	WB センターのイメージ・ビジュアル化	ロゴマークの作成（図 4） パッケージ（図 5）
7・8 月	物品購入、教育学部内焙煎実験室の整備	実験室排煙システム構築と稼働
9・10 月	焙煎技術・抽出技術の安定化	機器による客観的な数値化、グラフ化
11 月	健康医療プラザ内で焙煎実験開始	教室整備及び安全の確保
12 月	モニタリング（対象 ）	アンケート実施で 6 割の高評価
1・2・3 月	まとめ	今後の方向性の確認



（図 4）



（図 5）

※ロゴマークはサインやパッケージの他、缶バッジとしても応用している。（図 6）



（図 6）